



第20号
(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30
TEL.(052)411-5301
FAX.(052)411-5341

霜月だ
報恩講だ

聖人にみんなで会いに行く日がすぐやってくるぞ
その日は十一月二十八日だ

お手次寺へ

名古屋別院へ

京都東本願寺(本廟)へ

参詣(おまいり)に行くという

それでいいのだが

俺は「聖人に会いに行くのだ」の方がええと思う
御影堂でどかっと座って

「来たよ」でもええ「こんにちは」でもええ

そして大声で「ナムアマミダ仏」という

あちらからナムアマミダ仏が聞こえてくる

「一緒になえようネ」かすれ声がする



平成21年 彼岸 帰敬式

聖人のおことば

御消息集 性信御房宛あてから

二句を示す

「朝家の御ため、国民くじたみのために念仏を申しあはせ給ひ候はばめでたふ候べし」

「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ覚え候」

この二句は宗教と政治の在り方を述べている。ここで注意すべきことがある。朝家とは普通、朝廷とか国家と訳し権力者を指す言語であるが、聖人の意中には毛頭そのようなものは存在しないのだ。それどころか、念仏を敬うのが真の朝家の在り方である。

三国伝来の仏教は、そうした国々、そうした人々によつて守られてきたものである。それは曼荼羅(まんだら)の世界。同朋奉讚の世界を示している。真の平和はここに根ざすべきである。

出家三代

伊藤和美

我が家は三代にわたり廣讚寺から出家した。

父庄太郎(釋信誠)は昭和三十六年秋に、私和美(釋清誠)は昭和四十四年春に、息子清美(釋亮清)は昭和四十七年夏の出家である。

父は廣讚寺本堂再建事業が始まった時の出家で、寺役に専念した。

私は父の病の時のピンチヒッター的な出家で、会社の休みに寺役を勤めた。定年退職後は寺役に専念している。

三代目の息子は、中学二年生のときであり、父の趣味と考えられる出家である。中学生、高校生、大学生時代は寺役とは関係のない社会人であった。近ごろは寺の行事に年三回ほど出仕している。

三代にわたり出家する家庭は珍しく誇りに思っている。三代目が出家得度した記念写真がこの一枚である。

昭和四十七年夏、廣讚寺本堂前で。廣讚寺住職を中央に伊藤家三代の出家僧である。



お宮の犬

二カ月ぶりにお宮の犬の情報を得た。

Iさんが言った。

「また犬が子を生んだらしい。もうこれで安心と思ったのに。畜生はしょうがないわ」

要約すると次のようになる。父さん犬が死んで残った母さん犬と子供犬。親子だから子供は生まないものと決め付けていたらしい。ところがお宮の東、R家の納屋の奥でどうも子犬の声がする。調査にくるようにとのことので確かめたらしい。

「何匹いるかは、もう少し大きくなって捕まえてみてからだ」とIさんは、さばさばしている。

血統書のついた、畳の上の犬がはびこっているいまの日本社会で、お宮の犬は雑種には違いないが、日本の風土に生きている犬だ。「日本犬だ」と主張しているようでもある。

介護抄

まさ女

ひまわりは いきぎれなしに 咲いている

吹く風に のれぬ病葉

散りもせず

赤トンボ 伊吹の山から

我が家まで

つくぼうし 夏の終りを

泣くばかり

七十歳を過ぎ 初デビューの 彼岸かな



かずみ

行事予定

十一月 四日(水) 二時 常任委員会

十四日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(木) 二時～四時 学習会

二十八日(土) 九時 おみがき・おとき

二十八日講・女人講

【報恩講執行】

十二月 四日(金) 九時 仏華・華束準備

一時 おつとめ・法話

五日(土) 十時 おつとめ・法話

おとき

一時 おつとめ・御伝鈔

六日(日) 十時 おつとめ

本澄寺 明仁師 絵伝説教

おとき

一時 おつとめ・絵伝説教

十二日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(土) 二時～四時 学習会

二十八日(月) 十時 二十八日講・女人講

三十一日(木) 三時 歳末勤行

十一時半 除夜